

その日は突然、やってきました。

平成二十二年十月、羽田空港のラウンジで、父が倒れました。つい一週間前、東京に出張してきた父と食事をして、久しぶりに元気な姿を見たばかり。まさに青天の霹靂でした。

病院に駆けつけ、島根の実家に住む母に、今すぐ東京へ来るよう伝えました。母が到着したころ、まだ父の息はあるものの、意識はない状態。それでも父の耳元で感謝の気持ちを伝えていた母の姿は、今でも私の脳裏に焼きついています。

父は群馬出身、母は島根出身で、父が安野家の養子に入り、島根に住むことになりました。その後、父は会計事務所を開業。母は安野家の家業である畳屋を手伝いながら、私を含め、四人の兄弟を育てることになります。

そんな母の口癖は、「ありがとうございます」。畳の注文を受けた時や、私たち兄弟にも、ことあるごとに「ありがとうございます」と言ってくれました。

畳屋は、どちらかというと「待ちの商売」で、注文をいただかなければ



## 母の口癖

あんのひろあき  
株式会社ビジネスプラン 代表取締役 **安野広明**

昭和54年、島根県益田市生まれ。平成18年、公認会計士に登録。22年に安野公認会計士・税理士事務所を開業し、現在に至る。

ば仕事になりません。だからこそ、お客様から注文が入った際は、感謝の気持ちをきちんと伝える。そのことを母は、職人氣質の祖父から厳しく教え込まれて育ったようです。

私が幼いころ、悪ふざけや兄弟喧嘩でケガをした時も、母の口から「きつい言葉」や「厳しい言葉」を投げかけられた記憶はありません。「たいしたケガにならなくてよかったね」と微笑んで、いつも私たちが子供を安心させてくれました。

自分にも他人にも厳しい父を、文句も言わず献身的に支え、公認会計士の試験に挑んだ私の合格を、仏壇の前で祈りつづけてくれた母。そんな母は、きっと家族の中で誰よりも芯の強い人なのだと思います。

あの日、母が病院に駆け付けた時、すでに父の意識はなく、別れの言葉を交わすことはできませんでした。しかし、「いままでありがとう」と語りかける母の声は、きつと父の心に届いたのではないかと信じています。母のように「ありがとうございます」と言える人生が、私の目標です。